

件名：	史跡周防鑄銭司跡から「長年大宝」銭が出土したことについて
担当課：	教育委員会 文化財保護課 埋蔵文化財担当（電話：083-920-4111）

## ■概要

山口大学と協働で実施した平安時代の貨幣鑄造所である「史跡周防鑄銭司跡(しせきすおうのじゅぜんじあと)第3次発掘調査」において出土した貨幣が、5枚の「長年大宝(ちょうねんたいほう)銭(848年初鑄)であること、作る過程で失敗した「鑄損じ(いそんじ)銭」である可能性が高いことが判明した。

## ■出土した「長年大宝」銭について

「長年大宝」銭は、塊の状態出土し、その大きさは最大幅約4cm、最大長さ約3.7cmで、重さは約7.3gである。

当初は、土と錆とに覆われていたが、公益財団法人元興寺文化財研究所の全面的な協力により、銭貨のクリーニング(土・錆を落とす作業)やX線透過撮影、X線CT撮影を行った結果、銭貨の小片と5枚の「長年大宝」銭であることが明らかになった。

5枚の内、完全な形のものは2枚であるが、変形していたり、穴が開いていたりしていることから、完成品ではなく、鑄造に失敗した「鑄損じ銭」と考えられる。

## ■発見の意義

①鑄損じた「長年大宝」銭が複数枚もまとまって出土する事例は、全国でも極めて稀であり、歴史史料に記された「周防鑄銭司」の鑄銭工房が出土地周辺に存在したことをさらに裏付けることになった。

②史跡から初めて完全な形の「長年大宝」銭が出土したことで、周防

鑄銭司で生産した銭貨の実体が明らかになった。今後、出土銭の科学的な分析を通して銭貨の金属成分や原材料の産地等を明らかにすることで、平安時代の貨幣経済を支えた銭貨生産技術や、銭貨生産体制などの解明が可能になると期待される。

■今後について

山口大学と連携して、「長年大宝」銭の分析を実施する。

また、鑄銭司郷土館において特別展示を行う。

期間：平成30年10月27日（土）～11月3日（土）

## ■参考

### 1. 専門家のコメント

奈良文化財研究所 松村恵司所長（考古学：初期貨幣史）

鑄型に注ぐ溶銅（湯）の温度が高いと、銭が曲がったり、不整円形になったり、発泡することがある。また湯が回りきらないと穴が開いたようになる。飛鳥時代の工房遺跡である飛鳥池遺跡から、そのような「富本」銭が多量に見つかっている。今回発見された資料にも同じような特徴が見られるほか、方孔にバリと思われるものが残っている資料もある。

また、平安時代になると、新銭の原料とするために旧銭を回収するが、それであれば違う種類の銭貨が混じっていてもいいはずである。

これらのことから、今回発見された資料は、「長年大宝」を作る際に鑄損じたもので、もう一度銭貨の原料として再溶解するために、何らかの形でストックしていたものの可能性がある。

銭貨の生産に関わる遺物とともに出土しており、鑄銭工房が出土地周辺にあったことが証明されたといえる。

また、これだけ大量に鑄造関連遺物が出土しているのに鑄型が無いということは、鑄型が砂型であった可能性が高く、古代の鑄造工程（技術）の一端がみえてきた。今後は、工房の実態解明が課題となる。

連絡先：奈良文化財研究所 0742-30-6719

## 2. 発掘調査にいたる経緯について

史跡周防鋳銭司跡の周辺で調査が進展したこと、山口大学から「地域・行政・大学の協働による地方創生 ―古代テクノポリス山口の解明―」への調査協力の申し出があったことを契機として、平成28年度から、地域・行政・大学の協働による地方創生への取り組みとして「鋳銭司・陶地区文化財総合調査事業」を開始しました。

史跡周防鋳銭司跡は、史跡指定地のわずか5%程度しか発掘調査が行われていないため、その実態がよくわかっていません。このことから、文化庁の補助事業を活用して、山口大学と協働で45年ぶりとなる第3次発掘調査を行いました。

## 3. 史跡周防鋳銭司跡第3次発掘調査について

現地調査期間：平成29年8月28日(月)～平成30年3月13日(火)

調査面積：約450㎡

調査費用：約670万円

調査目的：昭和40年代に行われた第1・第2次発掘調査成果の確認

調査結果：昭和40年代に行われた第1・第2次発掘調査の成果を確認するとともに、新たに柱穴や溝状の痕跡を確認。

また、銭貨や緑釉陶器、木製品といった貴重な資料のほか、コンテナ50箱に埴埦・鞆羽口が見つかりました。

## 4. 今後について

「長年大宝」銭の特別展示：

鋳銭司郷土館 10月27日(土)～11月3日(土)まで

現地説明会会場 11月4日(日・祝)

「長年大宝」銭の調査：

(公財)元興寺文化財研究所 蛍光X線による成分分析

国立歴史民俗博物館 鉛同位体比の分析等

第4次発掘調査：8月末～11月中旬までを目処に実施中。

今年度は「長年大宝」銭出土地点の周囲を調査。

現地説明会：11月4日(日・祝) ①10時30分～、②14時～

(①、②ともに同じ内容です)

## 5. 周防鑄銭司について

周防鑄銭司は、平安時代に設置された官営の貨幣鑄造所です。史料によれば、天長2年（825）に長門鑄銭司（使）の廃止を受けて設置され、その後11世紀初め頃まで、およそ200年間存続しました。多い時で80名を超える人々が年間1万1千貫文（1,100万枚）を目標として銭貨生産に携わり、いわゆる「皇朝十二銭」のうち8種類の銭貨を鑄造したとされています。

周防鑄銭司が稼動していた時期は、一時期を除いて「鑄銭司」は周防のみに設置されていました。平安時代の銭貨生産のほとんどを担っていた周防鑄銭司は、その存続期間の長さ、鑄造した銭種及び銭貨枚数の多さは他の「鑄銭司」と比べて卓越しており、その遺跡は日本史上貴重な遺跡といえます。

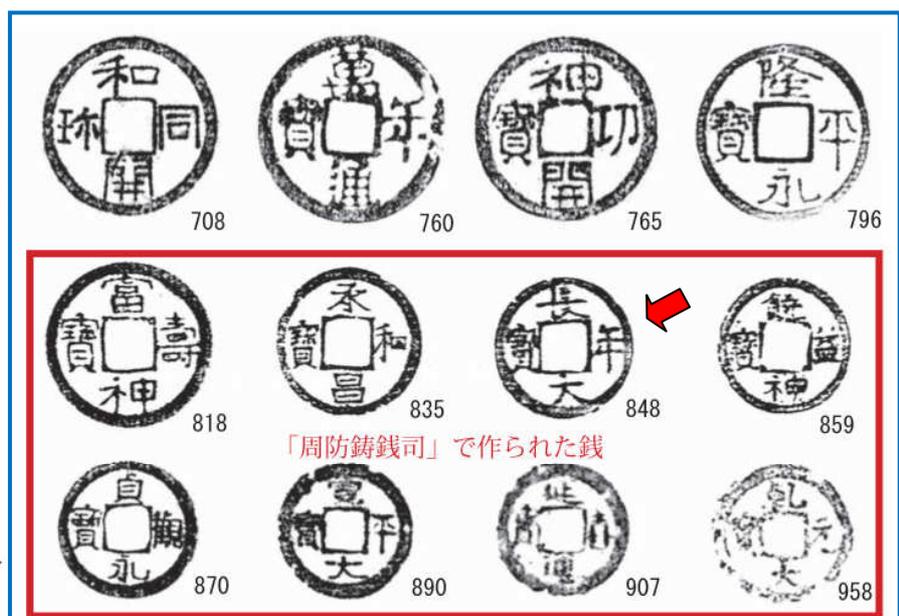
また、周防鑄銭司は、施設が移転したことを記す史料が残されていることから、鑄銭司地域から陶地域にかけて複数の場所に存在していた可能性が指摘されています。史跡指定地は、鑄造に使用された土製品が出土することで明治時代に知られるようになり、昭和40年度・46年度の2度にわたり部分的な発掘調査が行われた結果、昭和48年3月に約3万8千㎡が国史跡に指定されました。

## 6. 「長年大宝」銭について

史料によれば、嘉祥元年（848年）から貞観元年（859年）までつくられたとされています。



▲富本銭の拓影  
出典：永井久美男編  
1996『日本出土銭総覧』  
兵庫埋蔵銭調査会



「皇朝十二銭」の拓影▶  
数字は、初めて作られた年



第 3 次調査 調査区全景



「長年大宝」銭（クリーニング前）



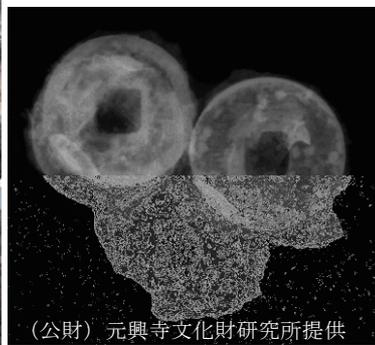
C 区 調査区全景（西から）



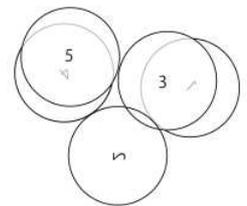
「長年大宝」銭（クリーニング後）



C 区 遺物出土状況（北東から）



（公財）元興寺文化財研究所提供

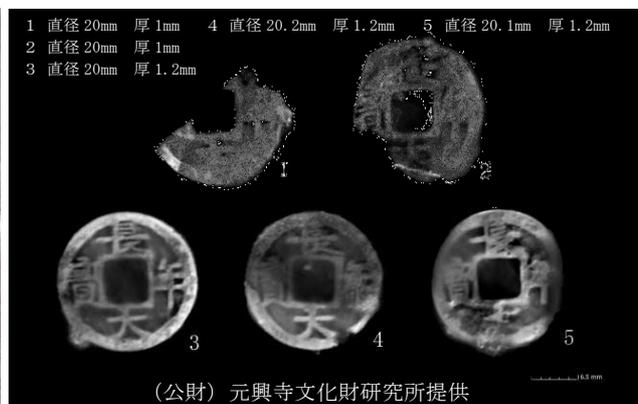


※番号は下図の番号と対応  
重複状況 模式図

X 銭透過画像（（公財）元興寺文化財研究所提供）



C 区 「長年大宝」銭出土状況（南東から）



（公財）元興寺文化財研究所提供

X 銭 C T 画像（（公財）元興寺文化財研究所提供）

